

おわりに

「LINEをしたら魂を抜かれる!？」

LINEが流行し始めた頃の話です。私は各地の学校の生徒指導担当者等の研修会で講師を務めることがあるのですが、そのような場で「まずは先生方自身がLINEをやってみてはどうでしょうか」と呼びかけました。しかし、どこでも強い拒絶にあいました。聞いてみると、「LINEに登録すると個人情報ダダ漏れするので危険」という情報が流れていることがわかりました。冒頭の言葉は、そんな先生方から聞いた「都市伝説」です。「明治時代の初期に写真を怖がった日本人のようだ」と、最初は笑い飛ばしていましたが、笑いごとではありませんでした。

「LINEとかいうのが流行しているが、なにやら危険だそう。登録したら大変なことになるらしい」。日本中の多くの先生がそういう認識をし、朝礼等で「LINEは危険だから、絶対に登録しないように」と話していることもわかってきました。

子どもたちが「先生は何も知らない」「先生の言うことは信用できない」と感じたのも容易に想像がつかます。こんな状況では、LINEやスマホでトラブルに遭遇したとき、先生に相談するわけがありません。確かにLINEには要注意な部分もありますが、登録が即危険なわけではありません。先生方に正確な情報や知識を伝える必要がある。それが本書執筆のきっかけでした。

今、困っている子の多くは、スマホのまわりにいます。ですから、私はスマホと子どもたちの関係について調べ、考え、その話をする

ことが多いのです。しかし、私は決してスマホの専門家ではありません。スマホの前は、困っている子はガラケーのまわりにはいました。その前は、ポケベル。さらにその前は、コンビニの駐車場に「うんこ座り」していました……。そんな困っている子が、今はスマホのまわりにはいる。そういうことだと思っています。

出会い系で被害にあった女子生徒は、出会い系で出会った男性を「やさしかった」「相談に乗ってくれた」と話し、恋愛感情さえ持っています。しかし、さらに話を聞くと、「本当は危険なことくらいわかっている」「『からだ目当て』なものも知ってる」と話します。

「話を聞いてほしいのは先生や友達、お母さん。でも誰も聞いてくれないから、出会い系で聞いてもらう」。重い言葉です……。

彼女たちは命がけで出会い系に逃げています。私たちに求められているのは、LINEの知識やスマホの情報ではありません。彼らのそんな寂しい心を受け止めてあげることです。

私は「スマホの問題は心の問題」だと考えています。私たちがしっかり見つめなければいけないのは、当然のことながら彼らの心です。スマホががらんでトラブルが頻発するからといって、スマホだけを見ても何も見えてきません。重要なのは、スマホを使う、子どもたちの心なのです。

このような思いでこの本を書きました。つつい熱く語ってしまう場面もありましたが、先生方の向こうにいる子どもたちの幸せを願って、あえて冷静な記述にしています。

スマホ時代、難しい時代です。しかしだからこそ、私たち教師に求められていることは大きいと感じています。一緒に考えていきましょう。